

広報
あかいけ

発行所 赤池町役場 編集 総務課 文書広報係 ☎(代表) 2004
印刷所 赤池印刷 毎月 1回発行

町の人口	
人口	9,415人 (減17)
男	4,506人 (減6)
女	4,909人 (減11)
世帯数	2,980世帯 (減5)
出生	6人
転入	25人
死亡	8人
転出	40人
(54年6月末日現在)	

() 内は前月との増減



(「あかいけ小唄」を踊る父母の会連合会のみなさん)

“ふるさと音頭,,
「あかいけ小唄」をみんなで!!

54年

8月

№.199号

かねて赤池町郷土芸能保存会(会長皆川正信)では、ふるさと音頭「あかいけ小唄」の復活運動を進めてきましたが、町長の深いご理解によって、今後町制40周年を記念してシンガーレコード社よりレコード発表をみることができました。

このふるさと音頭「あかいけ小唄」は、寿藤智寿先生にふりつけを戴きましたので、今年是非町内各地での盆踊り、小中学校の運動会で、この踊りをみんなで踊って戴きたいと願っております。



集中豪雨で床上浸水となった本町通り

水害特集

“6・30豪雨”

＝269戸が床上浸水

町は災害救助法が適用されるなど、これまでにない水魔に住民は震え上がっていました。町水害対策本部は七月一日も消毒、ゴミ処理、炊き出しなどで、水害の引いたあとは、道路や家の中は泥だらけで手のつけようもなく、掃除を始めた各家庭では、タタミ、ふすま、家財道具、テレビなどが泥まみれで、どうしようもない無残さでした。

区分	被害	区分	被害
全壊	2世帯 8人	田	流失・埋没 11ha
半壊	3世帯 5人	畑	流失・埋没 0ha
一部破損	55世帯 125人	道路	冠水 8ha
床上浸水	269世帯 890人	水路	冠水 30カ所
床下浸水	59世帯 203人	崖	道路 7カ所
		り	ずれ 55カ所
		り	災害者数 388世帯
			1,231人

【災害状況】

今後の復旧作業は九月まで続くものと思われます。被害にあわれた皆様には、水害御見舞い申し上げます。

水害御見舞金

- 内閣官房長官 田中 六助 (十万円)
- 丹村 法文 (一十万円)
- 日本消防協会 (十万円)
- ライオンズクラブ (六十万円)
- 金光教 (三万円)
- 中西 續介 (一十万円)
- 中村 邦臣 (一十万円)

義援物資の寄贈

- 日本専売公社 (塩、煙草)
- 資生堂 (歯ブラシ、歯ミカ)
- 北九州花王製品販売株・花王製品福岡販売株・筑後花王製品販売株・花王石けん株 (洗剤)
- 日本赤十字社 (衣類)

電気製品無料サービス

このたびの水害により、各家庭で被害のあった電気製品、製品の修理を無料でサービスさせていただきます。業者の方々、どうもありがとうございました。

- 今畑電器
- 木下電気商会
- 木月電器
- 村上電器
- 乾電器店



(赤池駅前水害見舞いを語る田中長官)

田中官房長官郷里入り

水害見舞いに

去る六月三十日の豪雨による水害で、田中六助官房長官の郷里(当町)は大変な被害を受けました。その水害見舞いと、七月十五日に当町入りし、池永町長らの出迎えをうけ、この度の水害で浸水した本町、昭和町、貴船、大和町など車で視察したあと、赤池駅前で住民の前に「予想以上に激しい水害で大変だったでしょう」と励ましのあいさつを行い、これより町内各地域を見廻りをしました。その後、金田、方城、糸田の各町と田川市へ向った。

被害続出!

1,5メートルの水＝

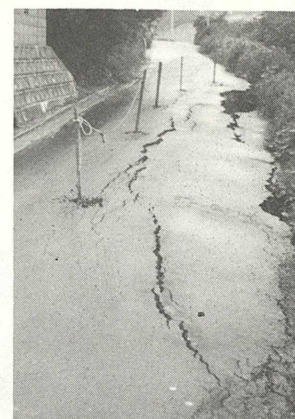


床上浸水家屋と水没した乗用車・本町

去る六月三十日未明より激しい雨。この豪雨により英彦山の水が逆流し、本町、昭和町、貴船、大和町の地域はあつという間に水かさ約一メートルに達し、一時は一五メートルの胸あたりまでなる水で二百六十九戸が床上浸水しました。役場では早速、町水害対策本部を設置し、町消防団などが揚水ポンプ三台を使い排水したが、高台

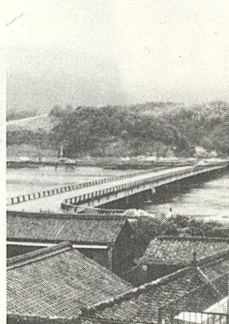


【被害のあった家屋】



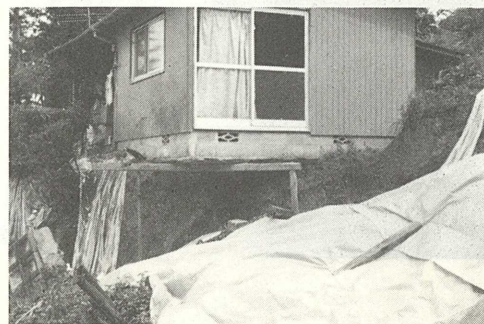
【キ裂が入り通行止めとなった道路・猿田】

から流れてくる水に追つかない。被災世帯は家財道具を持ち出すことも出来ず、着のみのままの姿でゴムボートで町民会館やお寺などに避難した。放置されたままの乗用車は屋根まで水がつかって



【水かさの増した彦山川】

無残な姿をさらしていました。又、役場前の堤防が崩れる恐れが出たため消防団が出動し、シートカバーや土のうを積むなどの補強工事をした。そのほか各地域で崖くずれなどにより家屋の全壊(二戸)、半壊(三戸)、道路の決壊、田畑の冠水など、今までにない大きな被害となりました。雨量は、この三十日だけで二百二十一・五ミリが集中的に降り、本



【被害のあった家屋】

☆ 今月のこよみと行事

- 和名 葉月 (はつき) 木の葉がそろそろ落ちる故に葉落月を略して葉月という。
- 1日(水) 心配ごと相談日(福祉) 第一次世界大戦始まる(天) 水の日
- 2日(木) 土用の丑
- 3日(金) 学制発布記念日
- 6日(月) 広島原爆記念日
- 7日(火) 心配ごと相談日(福祉) 七夕まつり・鼻の日
- 8日(水) 立秋
- 9日(木) 長崎原爆記念日
- 10日(金) タクシーの始まり(天)
- 15日(水) 終戦記念日 月おくれ盆
- 16日(木) 京都大文字焼き
- 22日(水) 処暑
- 27日(月) 心配ごと相談日(福祉)
- 28日(火) 民間初の日本テレビ放送開始(昭和28)
- 31日(金) 夏休み終了

▲上手のウソより 下手な誠 ▲よく約束をする人は よく忘れる ▲

まちの文芸

俳句

俳句の趣味

三木 春翁

昨年の秋、老妻が博多の老妻の兄夫婦に誘われて東京へ行った。兄夫婦の末子で、銀行に勤めている甥の家に十日ほど滞在して見物したのであるが、その時、妻が土産に俳句の短冊を書いてくれたので、旧作の一句を書いて渡した。

●紅葉見の客をもてなす山長者 銀行員の甥は、俳句など解るはずでないが、短冊の俳句を読むと「フン、僕が山長者という訳だ。これは面白い」といって、早速あり合わせの短冊掛けに飾ったという。そして、老妻は滞京中、大いに歓迎されたと帰宅して語った。

右の句は、私が裏英彦山に一人で吟行した時の句で、一句の俳句がお互いの心に通じあい、一層の親しみと愛情を深めるものだとはほほ笑ましく思った。勿論、私は紅葉見の近い頃だったので、何の期することもなく右の一句を書いたのであるが……

甥は、その後も短冊をテレビの上に飾っているという。また、今年の三月下旬、兄夫婦から金婚式の招待を受けた。ちょうど私等（再婚）も銀婚の年に当たるので、その旨伝えた。では、一緒に式をしてはということになり、博多で内輪だけの小宴を催した。

私は兄夫婦の金婚式にちなんで金紛入りの酒に添え、短冊に一句を書いて贈った。

●金の酒銀の酒酌み花の宴 内輪だけの金婚式、銀婚式の小宴も、この酒と一句で大いに盛り上ったとお世辞ながら一同に喜ばれた。

俳句の趣味もこうしたことに利用され、効果をあげると楽しいものである。勿論、趣味といっても何の道でも同様、一人前になるには相当の時間と努力が必要ではあるが……

私はいつまでも清純な心を失わず、自然を見、人生を考え俳句を作りたいと思っている。

あゆみ句例会

- 紫陽花の藍が沈むといふ色に しげを
●螢火の呼吸を整えをるごとく 雨亭
●外来の患者少なし田植どき 春翁
●水音の静まるどころ螢とぶ てい子

俳文

地藏盆

(老人ホーム天郷荘) 松本たかし

盆がくると、幼い頃の思い出として、八月二十四日の地藏祭がある。衰しくなつかしい。私は、その頃街に住んでいたが

表通りから一寸路地に、鍵の手に入ったところに地藏尊がお祭りしてあった。煉瓦敷の地面に荒筵をしきつめ、供物棚にはいろいろの菓子や果物が供えられ、家々の軒の絵行灯に灯が入り、香華がただよい、浴衣着に団扇をもった子供らが、色とりどりの帯をしめて集まってくる。

子供がすわると、大きな大きな数珠の輪をたぐり広げて、歌に合わせて回す。そして、又その頃流行した子供琵琶の余興を、神妙に聞き入り、菓子を食べあつたもの。刻がたてば、筵の上に列になって、細い路地の中を歌つたり踊りまわつたものである。

近頃はどこも交通がはげしく、時代も急速に変化し、佳き古い伝統は廃たれ忘れ去られてゆくのは、今日の子供たちにとっても、その土地にとっても、何人とも味気ないことである。

子供たちの年中行事のいろいろの遊びは、大人の生きるための経済依存、自然と宗教と信仰の薄らぎが、古来の尊い民俗的な伝承を廃れ失しない。かつ子供をして、益々今日のアメリカナイズされた大人びて太りつつあることは、今日の時代現象として、誠に考えればかなしいことである。

●地藏会線香燃ゆる草の中 虚子
●牛馬よく通る地藏会暮れぬうち

詩

今日の一日

(上野常福)

松葉力ホル

朝露ふんで畦道いそぐ
みどり波うつ田のものをながめ
手をさしのべて足ふみ入る
朝の水田の心地よき
行つもどりつ草ひろう
秋の稔の黄金の波を
胸にえがいて行つもどりつ
黄昏がれてならいおほえし
詩吟の一句
口ずさみつ、家路をいそぐ
空を仰げば小鳥が一羽
親を求むるひな鳥か
ねぐら求むるはぐれ鳥
我子たずねる母鳥か
今日一日をすこやかに
家族まちいるねぐらあり
我幸いと入日りのりつ

盆栽と園芸

夏のサツキ

ツツジ類の管理③

(赤池下町)

文部大臣賞授賞される

「書道家」木村翠畔氏

「書道家」木村捨義(翠畔)氏(80)市場の二が全国公募第六回日本書道美術館展において、最優秀である文部大臣賞を獲得され、去る六月三十日に入選された八名の弟子の皆さんと共に、東京帝国ホテルで文部大臣賞を授賞されました。当日は、五百名にもぼる参列者の中、多くの拍手とカメラマンのフラッシュを浴びて授賞され、翠畔氏社中の皆さんは自分のことのように喜びを隠せない様子でした。

また、七月八日には赤池町々民



(東京帝国ホテルで授賞を受ける翠畔氏)

夏の交通安全県民運動

7月21日～8月20日

ステッカーを貼って「ゆっくり走ろう」運動を

七、八月は一年のうちで最も交通事故の多い月です。なかでも目立つのが、いたましい子供の犠牲者です。

夏休みの解放感と暑さによる心身の疲れから、子供たちの注意力も鈍りがちなうに、ドライバー

も暑さと疲労で居眠り運転が増えるなど、子供への注意がおろそかになりがちです。

【運動の重点】

- 1、子供の交通事故防止
2、無謀運転(特に青少年の暴走運転)の防止
3、シートベルト着用の推進

【主な実施事項】
◎子供の交通事故防止
●保育所、小・中学校では、交通安全教室を開き、「安全な歩き方」「正しい自転車の乗り方」について指導する。

●家庭では、家族そろって交通安全の話し合いの場をつくり、まず大人が手本を示して指導する。地域では、子供の安全な遊び場の確保と交通安全指導に努める。

●運転者は、「思いやり運転」を心がけ、一時停止、徐行運転を励行する。
◎無謀運転(特に青少年の暴走運転)の防止

●家庭、学校、職場、青少年団体等で、暴走行為を「しない、させない、見に行かない」を徹底させる。

●暑さからくる過労(居眠り)運転を防止するため、無理のない運行計画をたてるなど、安全運転管理を徹底する。

●夏祭り、お盆、レジャー等で飲酒の機会が多くなるので、家庭、職場、酒類提供者等すべての

人が、「飲んだら運転しない」「運転する人には飲ませない」を徹底する。

◎シートベルト着用の推進

●同乗者を含めた乗車時のシートベルト着用を習慣づける。
●シートベルト着用モデル職場などをつくり、率先して着用する。

田川心臓を守る会 入会のお知らせ

現在、本人又は家族の方に心臓病でお苦しみの方がいませんか、そういう人達のために昨年十二月に田川心臓を守る会が発足されました。

その会の目的は、心臓疾患に関する知識や早期診療による回転指導や、又、心臓手術の時の血液の確保のための回転や、その他心臓病をなくすための講習会や達成に必要な事項を会員で決め、お互いに助け合い、一人でも多く心臓病から守り、明るい生活をしていく目的で発足されました。発足した事や講習会のお知らせは、二、三の新聞に掲載され、現在、百人位入会しております。田川市郡に居住する人は、誰でも入会出来ますので連絡して下さい。

田川心臓を守る会
理事・糸田地区担当 円垣内 正巳

(電)〇九四七四一〇〇〇一



夏のサツキ・ツツジ類は新しい梢が伸び、すでに花芽を分化していますので、八月に入ってから整枝しますと、来年の花は望めません。特別伸びて見苦しい枝を整理しましょう。そして、来春の開花までは病害虫の防除と施肥の管理を忘れずに。
お盆過ぎから花芽を食害するいろいろな害虫が発生しますから、害虫の防除には十分注意しましょう。又、花芽を分化する時期は肥料はひかえ、秋になり涼しくなつてから追肥を行います。
花を眺めるものは、特にリン酸と加里肥料を中心に与えると立派な花が咲きます。ツツジ肥料は、や、ひかえめに施します。この肥料が効きすぎますと枝葉は良く繁りますが、花芽が流れることがありますので注意しましょう。
又、春開花前に施肥すると、花の色が悪くなつたり、花腐れをおこします。
八月は乾燥がげいしいので灌水に十分注意して、時には葉水も忘れないように……